

令和7年度 園評価

青墓こども園

【教育目標】 生き生きと活動する子
～心豊かで元気いっぱい遊べる子～
じょうぶな子・考える子・思いやりのある子

【令和6年度の園評価より】

- ・子どもにつけたい力を明確にし、そのために何をすると良いか、なぜそれが良いか、子どもの発達理解をしながら、職員間で話し合い保育を行っていく。
- ・思いの相違による葛藤の体験を大切にしながら、他者の気持ちを想像する力を育てるようにする。
- ・子どもの実態に合わせた意図的な保育や意味を情報発信していきながら家庭との連携につなげる。
- ・遊びに夢中になると安全面においてヒヤリすることがあるため見直していく。
- ・小学校と連携した危機管理体制を考えて実践していく。

4段階評価

○保育者 ☆関係者 ●課題

観 点	短期目標	職員 評価	保護者 評価	評価及び意見の概要
子どもへの保育・教育	健康な体 <じょうぶな子> 保育者や友達と一緒に十分に体を動かすことを楽しむ	3.68	3.92	○毎日の様々な体作りを通して体を動かす楽しさを知り、できることが増えたことが、自信につながり「もっとやりたい」と自ら体を動かして遊ぶようになった。 ○サーキット遊びやチャレンジタイム（5歳児）を設けることで、友達の姿から刺激を受け自分から挑戦する姿が増えた。 ○毎回のリズムで付けたい力を明確にし、職員間で共通理解を図り週案に考察を記載していった。ポイントをもって取り組むことで、子どもたちも強くなりたい部分を意識するようになった。 ☆リズム遊びやサーキット遊びなど体を動かす楽しさを知った子は小学校でも主体的な体作りにつながる。子どもの実態を把握し、付けたい力を明確にして工夫していくことは成長の基礎となるため継続していけるとよい。 ●取り組み内容が、子どもの発達や実態に合っていないと主体性が損なわれるため、実態を把握し続けていく。
	精神的発達 <考える子> 自分なりに試したり工夫したりして表現（遊ぶ）することを楽しむ	3.64	3.82	○子どもたちがやりたいことに十分取り組めるよう時間を確保し、子どもの思いを聞きながら継続して遊べる環境を設定することで、子どもたちのイメージを膨らませて遊んだり、試したりしながらとことん遊び続ける姿につながった。 ○思いを実現するまで試行錯誤する時間を大切にしていこうと、「できない、やって」から「やってみよう」「できた」になり、子どもたちの自信につながった。 ☆子どもの実態や発達を理解した上で試行錯誤する時間を意図的に作ることは小さな達成体験の積み重ねとなり主体性にもつながっている。結果ではなくそこに至るまでの思いを大切に、待つ、見守る工夫が大切である。 ●子どもの発達や実態に応じた環境の工夫や、必要以上に保育者が声を掛けないなど援助の仕方を工夫していきたい。
	社会的発達 <思いやりのある子> 自分の思いを伝えて相手の思いを知る	3.64	3.69	○グループ活動を通して友達との関りが増え、協力し合う姿も増えてきた。関りが増えてきたことで、トラブルも見られるが、自分の思いを相手に伝えたり相手の思いを聞いて話し合いをしたりすることができるようになってきた。 ○日常生活の中で異年齢の活動を見に行く機会を設けたり一緒に遊んだりすることで、憧れをもち、真似をしようとする姿が見られた。 ☆意図的に周りの関係性に目を向けさせることや思いやりをもって互いに接することができるカリキュラムは大きな意味がある。 ●意見の食い違いから思いを伝え合うが、よく考えずに諦めたり思いを押し通したりする姿があるため時間を十分にもつ。
域保護者・子育て支援	保護者と共に子どもの育ちを支える	3.35	3.56	○ドキュメンテーションや学年だより、送迎時の保護者との会話の中で、保育の意図や子どもの頑張りを継続的に伝え、子どもの成長を保護者と共有することができた。 ○体作りや保育の意味、重要性が家庭に伝わり、園で行っているボールつきや縄跳び、散歩、リズムなど家でも一緒にやるようになったといった声や、家でも箱を見つけると、テープやハサミを使って工作をしているといった声が多く聞かれるようになった。 ☆日々の姿を伝える話題提供は家庭での子どもとの過ごし方につながっている。保護者の意識をいかに高めるかは大切な課題である。子どもたちが保護者に話したくなる体験や褒められる経験をしていけるように努めたい。 ●延長保育利用児の保護者に対して、意図的に子どもの姿を伝える機会をもち、園生活に関心をもってもらえるように努めていく。
体制全般運営	自分の体や命を守る為に危機管理能力が身に付くようにする	3.5	3.86	○今までにない想定で命を守る訓練を6回実施したことで、固定概念にとらわれない思考になりつつあり、保育者間で役割分担をして動く重要性を感じた。また子どもも様々な想定で命の守り方を知ることができた。 ○毎回その日の終礼で反省を出し合い、些細な疑問や迷いを話すことで、様々な意見が出し合い、次に活かすことができた。 ☆想定外の命を守る訓練は、大きな災害だけでなく、日常生活の中での危険に対する子どもや大人の意識にもつながりやすい。

<次年度に向けて>

- ・子どもにつけたい力を明確にし実態を把握し続けながら、職員間で話し合っ評価・改善をしていく。
- ・子どもの発達や実態を理解した上で、主体的に取り組みたくなるような援助（待つ・見守る・見届ける・声掛け等）の工夫をしていく。
- ・意見の相違を経験する活動を大切に、葛藤する時間を十分にもつ。
- ・保護者（延長保育利用者含）に合わせて、子どもの姿や園の教育活動に目を向けたいくなるような伝え方を工夫する。
- ・一人一人の特性や発達を多面的に捉え、支援方法を追究していく。